

プログラム概要

○プログラム名	「名大高等研究院研究者育成特別プログラム」
○総括責任者名	「平野 真一」
○提案機関名	「名古屋大学」
○実施予定期間	「平成18年度～平成22年度」

名古屋大学の現状

名古屋大学は教員数約1,770名の中規模大学であるが、野依博士のノーベル化学賞受賞、赤崎博士の青色発光ダイオード開発、等の傑出した研究と共に、科学技術分野では、大型科学研究費補助金（特別推進研究や特定領域研究）の約5－10%、21世紀COEプログラム採択数でも約10%を占めている。タイムズ紙が発表した大学ランキングでは日本の大学としては5位、世界では129位に位置する。

名古屋大学高等研究院は2002年より若手研究者対象の研究プロジェクト支援を実施して好結果を得つつあり、制度の拡大が望まれている。また生命理学専攻は、テニユア・トラック制度の試行として若手独立研究チームを創設し、他の生命系研究科（医学、農学、工学）と共同して本制度の拡充を計画している。

全学的に21世紀COEプログラムを中心に特任教授・助教授として、任期制・年俸制を導入している。

プログラムの概要

高等研究院に研究者育成特別プログラム（テニユア・トラック制度）を導入する。高等研究院が候補者を国際公募・選考する。採用された若手研究者へは、本プログラムにより人件費、研究費、研究員雇用費等を支給し、高等研究院が管理・運営する「高等総合研究館」に研究室および実験室を貸与し、独立した研究室運営を支援する。教育者としての育成は、対応する推薦部局が支援する。任期終了時には高等研究院が評価し、推薦部局に対してテニユア付与の推薦を行う。

充実した研究評価体制を有する高等研究院は、優れたテニユア候補者を客観的に選考すると共に、個々の研究活動の支援および高等研究院での活動を通して高度で広い視野と高い研究者倫理を有する若手研究者を育成する。

プログラムの達成目標（ミッションステートメント）

本プログラムでは、15名程度の若手研究者を採用する。本プログラムの達成目標は、全員が卓越した研究成果をあげてテニユアを得ることである。

研究者の任期は5年とし、3年目と最終年に中間審査および最終審査（テニユア審査）を行う。5年目のテニユア審査で可となれば、推薦部局のテニユア教員となる。

本プログラムで育成した若手研究者は、基本的に本学の推薦部局の教員となることが期待されている。これらの若手研究者がそれぞれの推薦部局に異動し、力を発揮して成果をあげることで高い評価がえられれば、広い範囲に、テニユア・トラック制度、研究者倫理を備えた高度研究の雰囲気が浸透していくと期待される。